

ソフトテニス競技者育成プログラム

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

競技者育成プログラムの基本理念

基本理念

国際レベルの競技能力の開発を目指して、競技者の発掘・育成・強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づいてそれぞれの時期に最適な指導を一貫して行うこと。また、ソフトテニス競技をより魅力のあるスポーツに育て、競技を通じて青少年の育成に寄与していくこと。

この理念を現実のものにするため、

1. 各年齢層のカテゴリーからなる under14、under17、under21 等の育成。
2. 各カテゴリーの日本代表の強化。
3. それらの活動を支える指導者やオフィサー・スタッフの養成を一体として、積極的、組織的に図る。

一貫指導システム

競技者育成プログラムを構成する

■一貫指導とは…

国際的な競技者育成の動向等を踏まえ、トップレベルの競技者を育成するための指導理念や指導内容等を競技者の発達段階や技術水準に応じて明確にし、優れた素質を有する競技者にこの指導理念に基づく高度な指導を継続して行うこと。

■一貫指導システムとは…

競技者の育成に重要なジュニア・ユース期の各学校段階での異なる指導者の下においても、一貫した指導理念に基づいて、個人の特性や発達段階に応じた最適の指導を受けることを通じて、トップレベルの競技者に育成されるように構築されたシステム。

競技者育成プログラムにおける指導理念

我が国のスポーツ界における競技者の育成は、ジュニア期の競技者については学校等の指導者が、トップレベルを目指している競技者については大学、企業等の指導者が、それぞれの考え方にに基づき指導を行い、これらの競技者のうち国内の競技大会で好成績を収めた者を、オリンピックをはじめとする国際競技大会への参加に向けて強化するという方法が主体であった。学校部活動中心に発展してきているソフトテニス界においては、特にその傾向が強い。

しかしながら、この方法では、競技者の能力を将来に向けて適切に向上させていくための指導が十分に行われず、とりわけ競技者の育成上最も重要なジュニア期における指導を、各学校段階を通じて継続的に実施していくことは困難である。このことが、トップレベルの競技者の輩出を妨げ、競技者の育成を計画的に行う諸外国と比較して、わが国の国際競技力の低下を招いた要因の一つに挙げられている。

また、少子化の進行等により競技人口の縮小が懸念される中、自然に淘汰されて選ばれた競技者を強化するという現在の育成方法では、今後の国際競技力の向上は望みにくい状況にある。

このため、(公財)日本ソフトテニス連盟では、現在の育成方法を見直し、「競技者育成プログラム」を策定した。このプログラムは、優れた素質を有する競技者が、指導者や活動拠点等にかかわらず、一貫した指導理念に基づく競技者個人の特性や発達段階に応じた最適の指導を受けることを通じ、トップレベルの競技者へと育成されるシステムである。

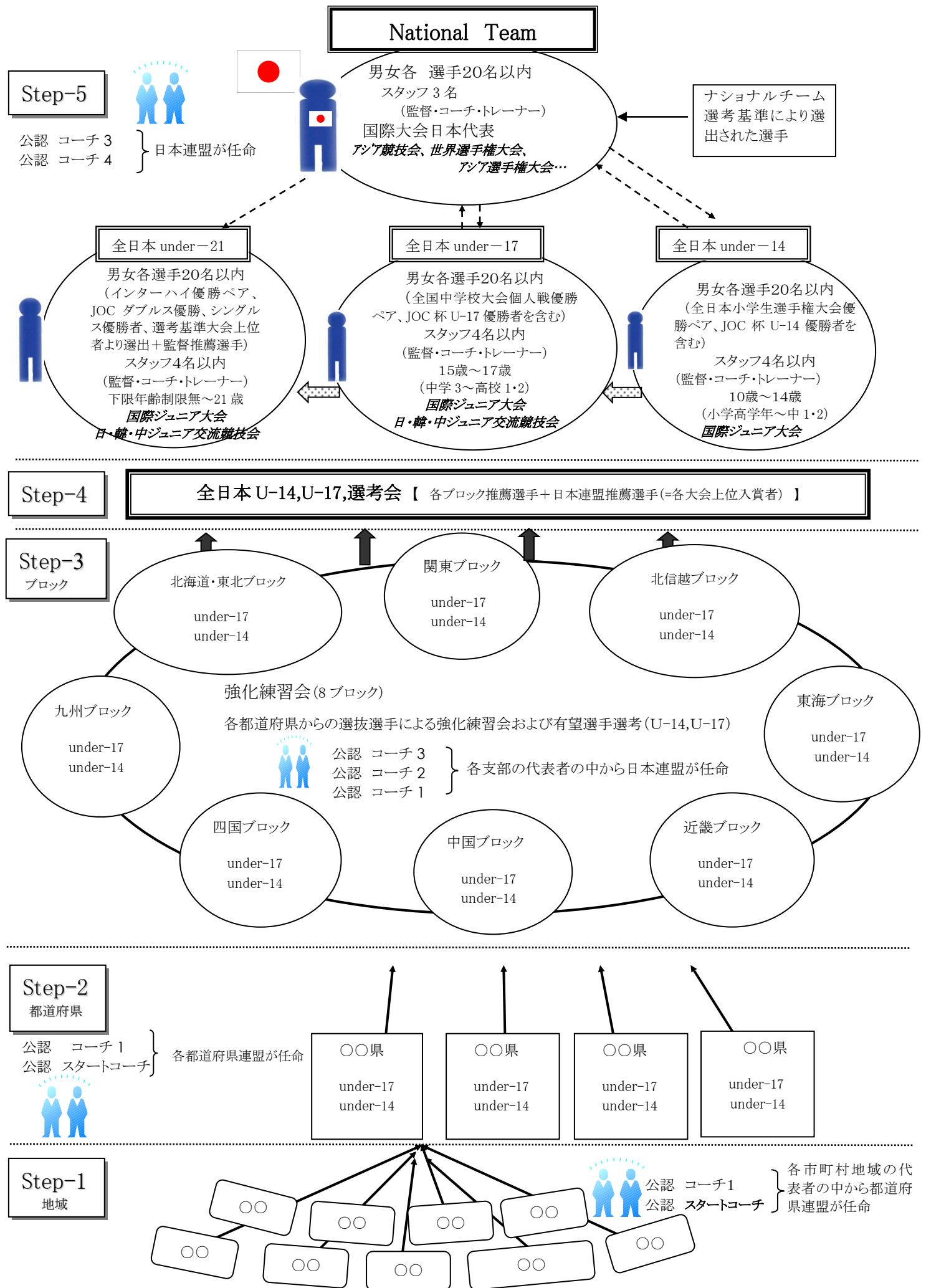
当連盟では、このシステムに基づき、競技者の発達段階や技術水準に応じて、明確かつ高度な指導を継続して行うことが不可欠であると位置づけた。

指導者自身が本プログラムを熟知し、競技者にとって最適な指導がなされることが最も重要であることを理解して指導にあたるとともに、次に掲げる「望ましいソフトテニス指導者像」の各項目を十分に踏まえて、指導者としての資質を高めつつ指導することが、競技者育成プログラムにおける最大の指導理念となる。

なお、本プログラムが円滑に機能するためには、競技者が日常のトレーニングを行う学校等における指導内容と本プログラムの指導内容とが大きく異なることにより、競技者の育成に支障が生じないよう、学校等や各クラブと連盟が十分な連携を図ることが肝要である。

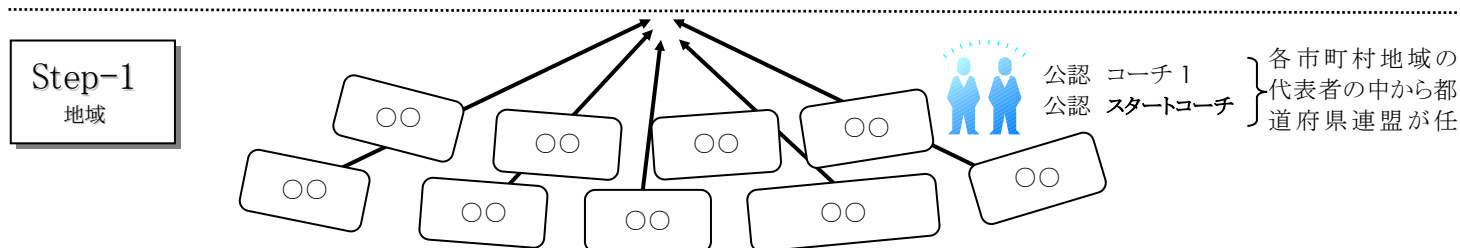
望ましいソフトテニスの指導者像

- ①競技者育成プログラム(一貫指導システム)の理念と方法を理解し、競技者の年齢、技能、要求にあったその年代における最適な指導を行う。
- ②コミュニケーションスキルを身に付け、「プレーヤーの話を聞く」、「叱るより良い点を誉めて伸ばす」、「教えすぎずプレーヤーに考える力をつけさせる」、「責任を持たせる」など、プレーヤーのやる気と自立心を育てるためのサポートをする。
- ③スポーツマンシップとフェアプレーに代表される、マナー、エチケットなど道徳的規範を身につけさせるためのサポートをする。
- ④プレーヤーが明確な目標を設定できるようにサポートする。
- ⑤ソフトテニスとの出会いをコーディネートする。
- ⑥ソフトテニスを継続できるようにサポートする。
- ⑦ソフトテニス仲間をつくるためのサポートをする。
- ⑧快適なソフトテニスライフを構築するための方法や内容についてのサポートをする。
- ⑨メディカルスタッフ、コンディショニングスタッフ、マネージメントスタッフなどと協力し、プレーヤーに対し最適な環境を提供する。
- ⑩自ら研鑽に努め社会に評価される指導者を目指す。



システムについて:

これまでも、様々な地区や地域で、年間にして1～2回の強化練習会(強化合宿・トレーニング・キャンプ)が、中体連や高体連の支部活動として行われてきました。この展開をもっと発展させて、3～4階層の強化システムにバージョン・アップを図りたい。

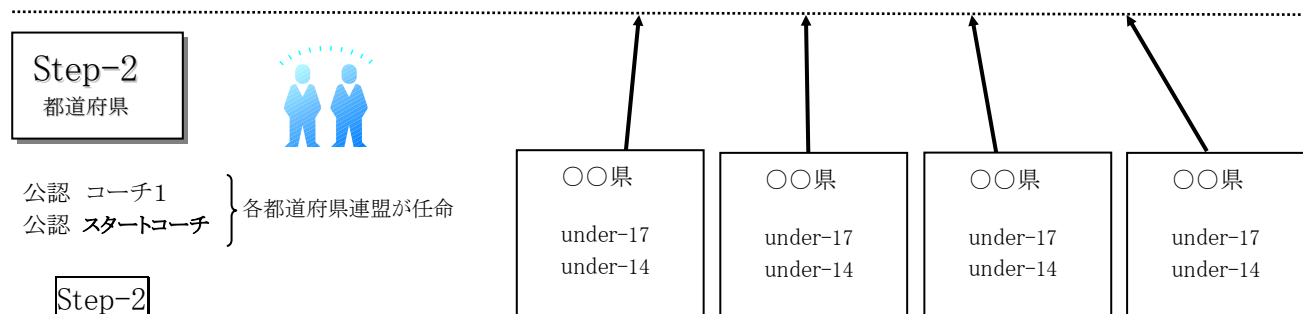


Step-1

まず、近郷の市町村で、U-14、U-17、などの(導入の段階は、中学校単位、高等学校単位がはじめやすい)合同の練習強化会を年間計画に基づいて開催する。

市町村レベルでは困難な場合は、各都道府県の中体連や高体連の既存の枠組み(郡市単位、〇〇地域、××地区など)を利用するなど、各都道府県、各市町村の事情を考慮し、有望な人材の発掘、育成を広くすすめていく。

【Step-1の効果的なチーム編成として、1種別につき監督1名、コーチ1名、選手20名(50名を最大とする)を、基本とする。ただし、使用するコート面数は1面10名を基本として運営する】



Step-2

Step-1の市町村におけるU-14、U-17の強化練習会や強化合宿によって選ばれた強化対象の指定選手は、もうひとつ広域的で、もう一段グレードの高い、例えば県の強化練習会・強化合宿で合同練習を行う。

今までの国体強化や小学生・中学生の都道府県対抗大会に向けての選手選抜・強化練習会等がこれに相当する。地域によっては、この都道府県レベルから、実際の強化活動をはじめるところもある。

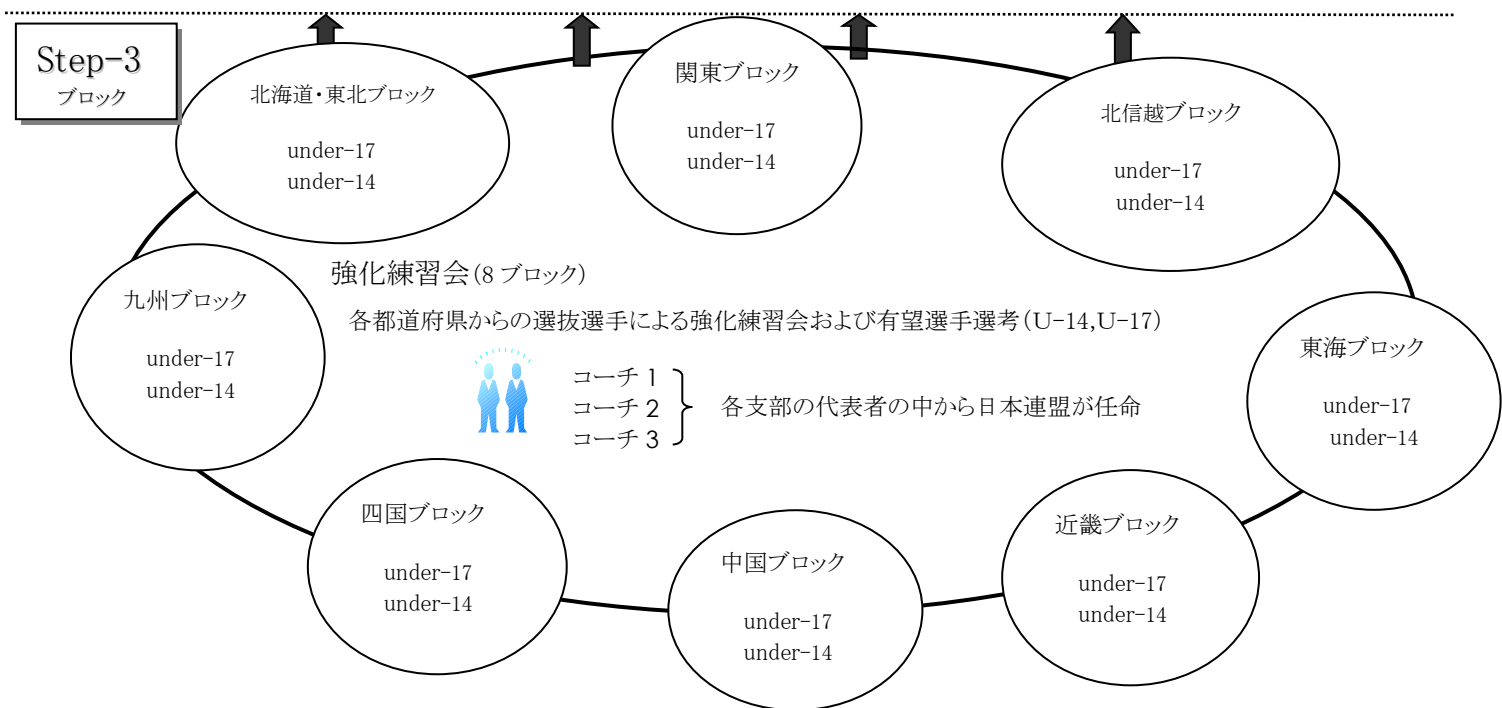
U-14、U-17という年齢で分けた理由は、中学1・2年生と小学生高学年(U-14)、高校1・2年生と中学3年生(U-17)というように、小・中・高校といった枠組みを外し、交わっていくことが一つの大きな理由である。

Step-1、Step-2の指導者については、各都道府県連盟が任命する。(スタートコーチ、コーチ1の資格を有している指導者から任命されることが望ましい。)

具体的な取り組み方については、後述の「各都道府県(市町村)支部での一貫指導システム例」を参考にして下さい。今後、さらに検討を行いより詳細な都道府県単位での一貫指導システムの取り組み方を示していきます。

なお、Step-2(各都道府県)からStep-3(ブロック)への推薦選手は、U-14については男女とも最大3名以内、U-17については男女とも最大2名以内、とする。

【Step-2の効果的なチーム編成として、1種別につき監督1名、コーチ2名、選手20名(50名を最大とする)を、基本とする。ただし、使用するコート面数は1面10名を基本として運営する】



Step-3

さらに県を代表する数名の選手はもうひとつ上の地域(ブロック)レベルの強化練習会に参加する。

年間に1回、ブロック毎での強化練習会を行い、そこでさらに年齢別各カテゴリーの中より全日本 U-14、U-17、選考会に選出するブロック推薦選手を選考する。この時点で、各都道府県から選出されるだけでなく、同一都道府県から複数名選ばれることもあれば逆に選ばれないこともある。それに対して、各都道府県支部の強化方法を精査する必要がでてくる場合も考えられる。

Step-4

全日本 U-14, U-17 選考会 【 各ブロック推薦選手 + 日本連盟推薦選手 (=各大会上位入賞者) 】

Step-4

各ブロックから選考された選手と日本連盟の推薦選手(注1)によって、各カテゴリーにおいて、オーディション型選考を行い、技術のみではなく、身体・運動能力・フィットネステスト(持久力・筋力・柔軟性・瞬発力・敏捷性・調整力)・心理的要素等の総合的な見地により選考し、全日本の選手を決定する。

各カテゴリーより選ばれた全日本の選手は、積極的に国際試合を経験させ、自覚と経験をつませ、将来の日本代表へと繋げていきたいと考えている。

この選考会の時期については、未定であるが、夏に開催される各種全国大会、秋の全日本選手権大会以降と考えている。U-14 から育ってきた選手が将来、日本代表となるのが、一つの理想的な形だと思われる。したがって、U-14 の選考は、毎年行われ入れ替わりも多いと予想されるが、U-17、21 に行くにしたい、その入れ替わりが少なくなってくると思われる。

また、各カテゴリーは、練習会場をブロック別に巡回(3カテゴリー×男女=6カテゴリー×年間3回の合宿=年間18回の合宿を8ブロックで巡回)し、同時に指導者講習会やブロック研修会を開催し、中央とブロック(地域)との意思疎通を図ることも考えている。

注1: 全日本大会での入賞者(全日本小学生選手権大会、全国中学校大会、全日本高校選手権大会、全日本ジュニア選手権大会(以上ベスト2)、など、この推薦選手を入れることによって、実績も考慮されることになる。

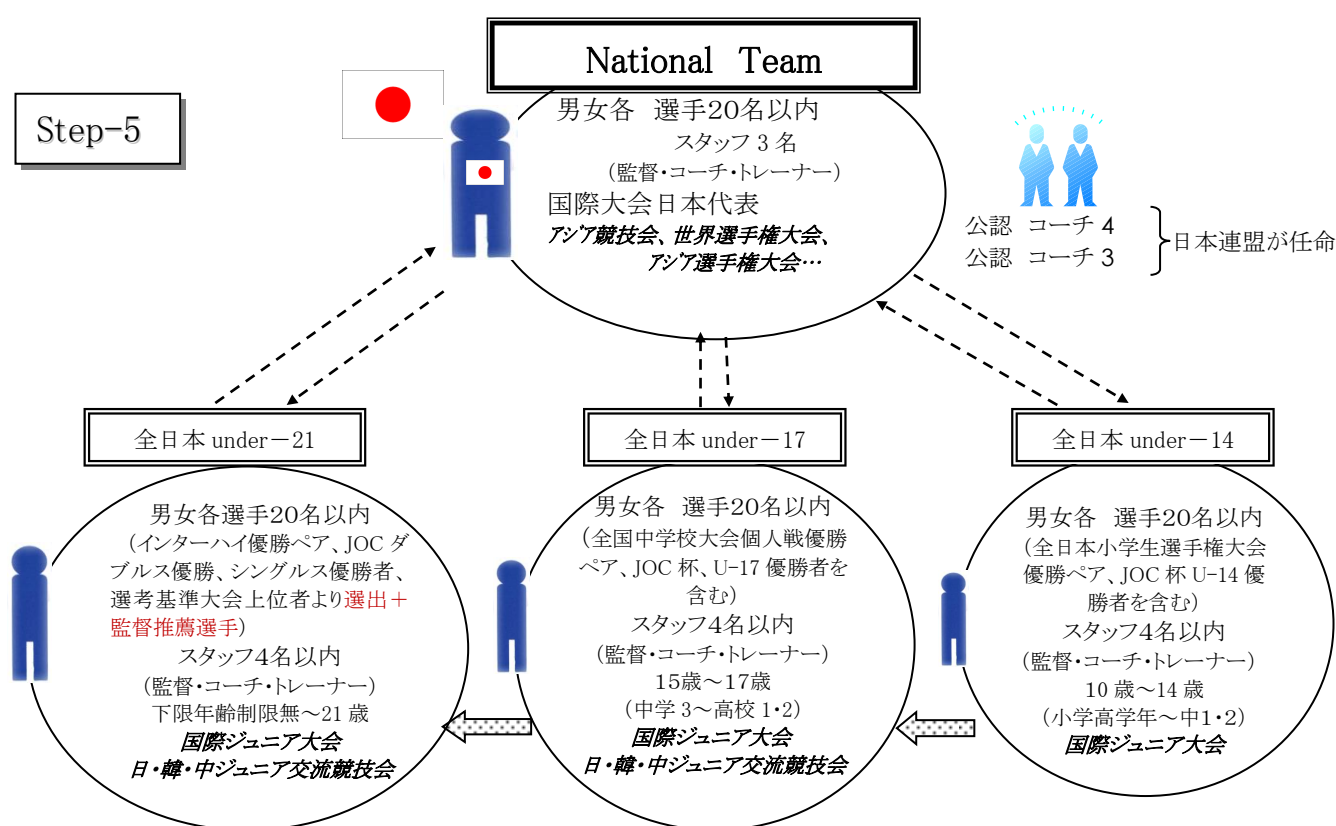
Step-3 からStep-4 への推薦者数

- ・(1カテゴリー約 40 人～45 人)
- ・(内訳基準:該当する層別の会員登録者数、支部数、支部内の大会参加人数等)

※1カテゴリーの内訳 (U-14,U-17)

関東、九州	5名×2 ブロック(計10名)
北海道・東北、北信越、近畿、中国	3名×4 ブロック(計12名)
四国、東海	2名×2ブロック(計 4名)
各種全日本大会での上位入賞者(ベスト2等)の日本連盟推薦出場枠を設ける(12 名以内)	

※アンダー21はステップ1～4は開催しない。



Step-5

ナショナルチームは、必要に応じて全日本U-14、U-17、U-21 より選考し招集することができる。

図のように、優秀な人材を早期に発掘し(U-14)、将来を見据えて育成(U-17)、国際大会で戦えるよう強化する(U-21)。そして、日本代表として戦っていけるのが理想といえる。(横の矢印)

全日本の各カテゴリーの強化合宿を、年間2～3回(5泊6日)程度、実施したいと考えている。そのうち1回は、全カテゴリーの合同合宿を行い、選手間同士の技術面・精神面の向上を図り、また指導者間においては、連絡協議会を実施し、一貫指導システムの運用の効率向上を図りたいと考えている。

活動実施期間は、12 月 1 日～翌年 11 月 30 日までとする。

このような人達に、かつての経験を活かして是非仲間としてソフトテニスの強化活動に力を貸していただきたい。そうなることで‘指導者養成プログラム’の構想に繋がり、その力の中身(コンセプト)を共有して、目標への道を切り開いていかなければならない。これが指導者養成プログラムの目指している水準と内容である。

それだけに指導者の責任が明確になり、重いものとなる。また、指導にあたる者が共通の理念に添った指導をしなければならない。指導者資格制度の活用が重要になってくると考える。

このような一貫したプログラムのもとで、競技者を育成するシステムを構築するためには、日本連盟にとって一貫指導システムを理解した新たな指導者の養成が早急かつ必須の課題である。

平成 17 年度より、公認スポーツ指導者制度の見直しがなされ、競技力向上指導者(A・B・C 級コーチ)と地域スポーツ指導者(A・B・C スポーツ指導員)から指導者制度が一本化され、スタートコーチ・コーチ 1・コーチ 2・コーチ 3・コーチ 4へと公認スポーツ指導者養成制度が改定された。公認スポーツ指導者を養成するうえで、当連盟は、競技者育成プログラムとの関連を次のように考えている。

	市町村	県	ブロック U-17	U-21	全日本 ナショナルチーム
スタートコーチ					
コーチ1					
コーチ2					
コーチ3					
コーチ4					

(1) 公認スポーツ指導者養成事業を積極的に奨励する

- (2) 公認コーチ資格者のための研修会、情報交換会の開催

- (3) コーチ資格の必要な指導者の事前セミナーを開催する